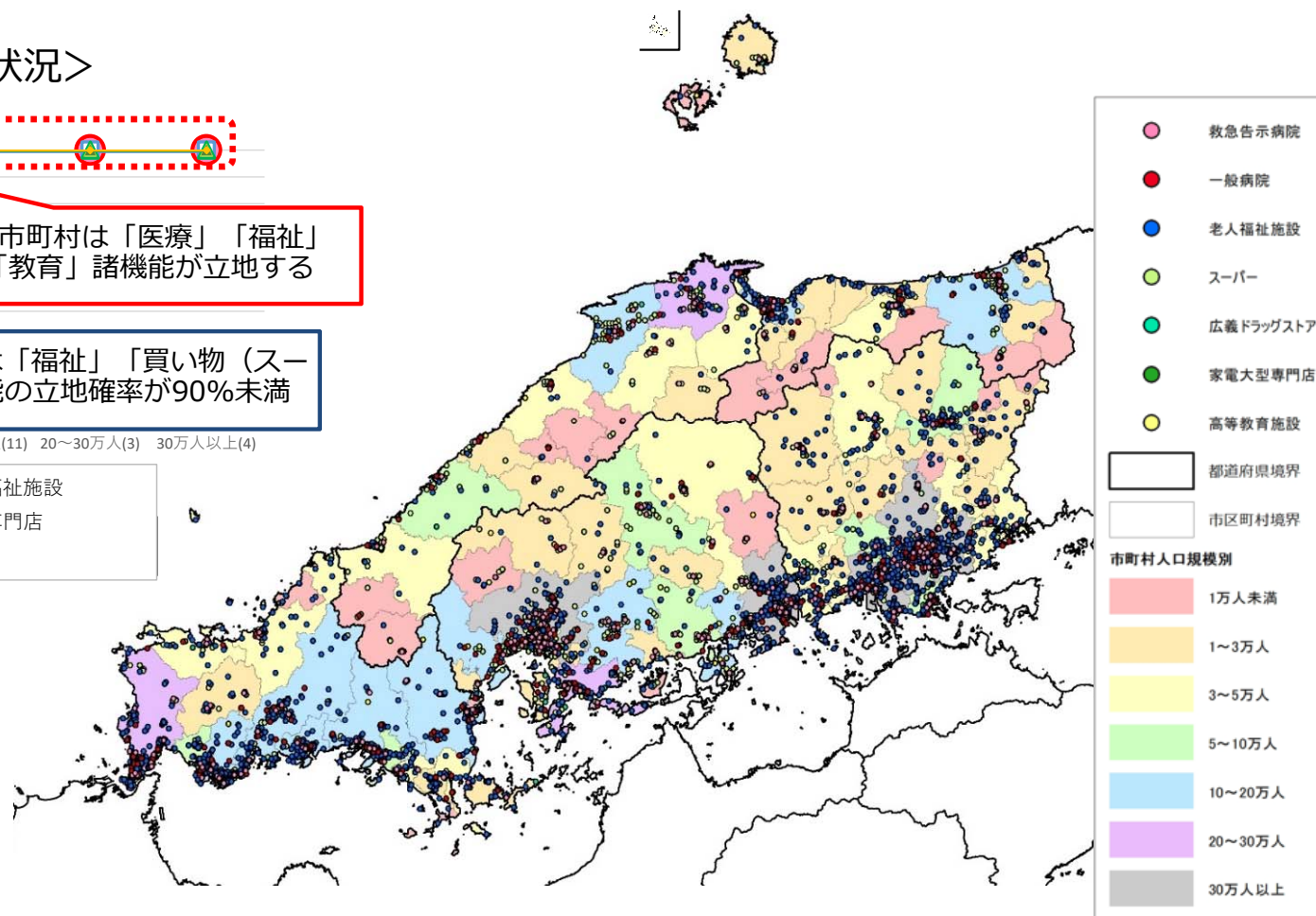
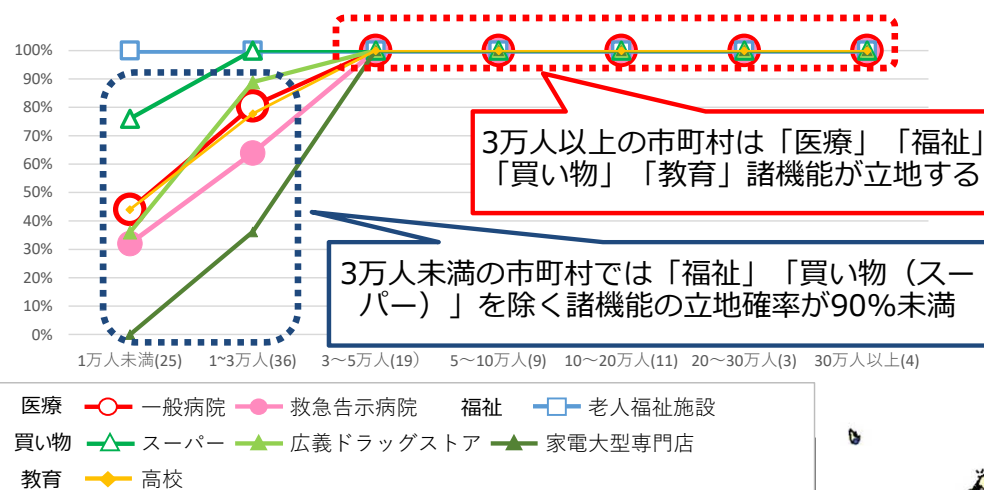


中国圏では「日々の生活に必要な機能」は人口3万人以上の市町村で立地

- 中国圏において、「医療」「福祉」「買い物」「教育」の諸機能は、目安とされている人口10万人はもとより、人口3万人以上のすべての市町村に立地。
- 一方で、3万人未満の市町村では、「福祉」「買い物（スーパー）」を除く諸機能の立地確率が90%未満。

日々の生活に必要な機能

<人口規模に応じた諸機能の立地状況>



※出典：「国勢調査」（総務省）「国土数値情報（国土交通省）」「商業統計」（経済産業省）より中国地方整備局作成

※データ：救急告示病院：島根県の救急告示病院（島根県HP）より「全25病院」を追加、家電大型専門店：「エディオンアルティ店」を追加

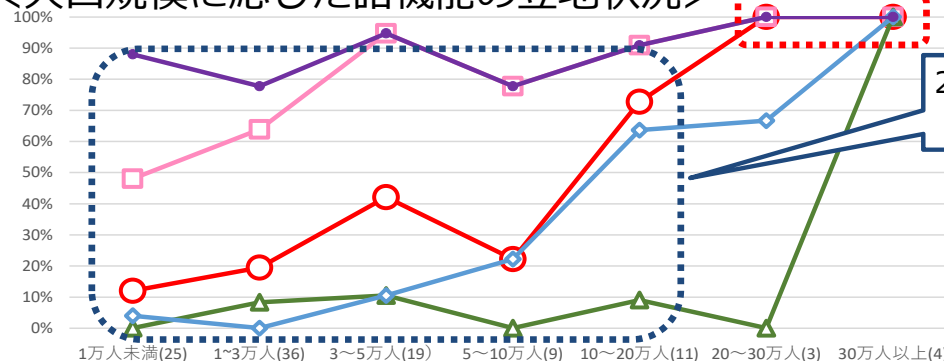
「日常に潤いを与える文化的な生活に必要な機能」は30万人以上の市町村で立地

- 中国圏において、「自然」「文化」「芸術」の機能は20万人以上の市町村で立地し、「娯楽」「教養」の機能は30万人以上の市町村で立地。
- 一方で、20万人未満の市町村では「自然」「文化」を除く諸機能の立地確率が90%未満。
- 特に「自然」は1万人未満の小規模な市町村でも80%以上で立地しており、中国圏において四季折々に変化する美しい自然公園等が身近であることが窺える。

日常に潤いを与える
文化的な生活に必要な機能

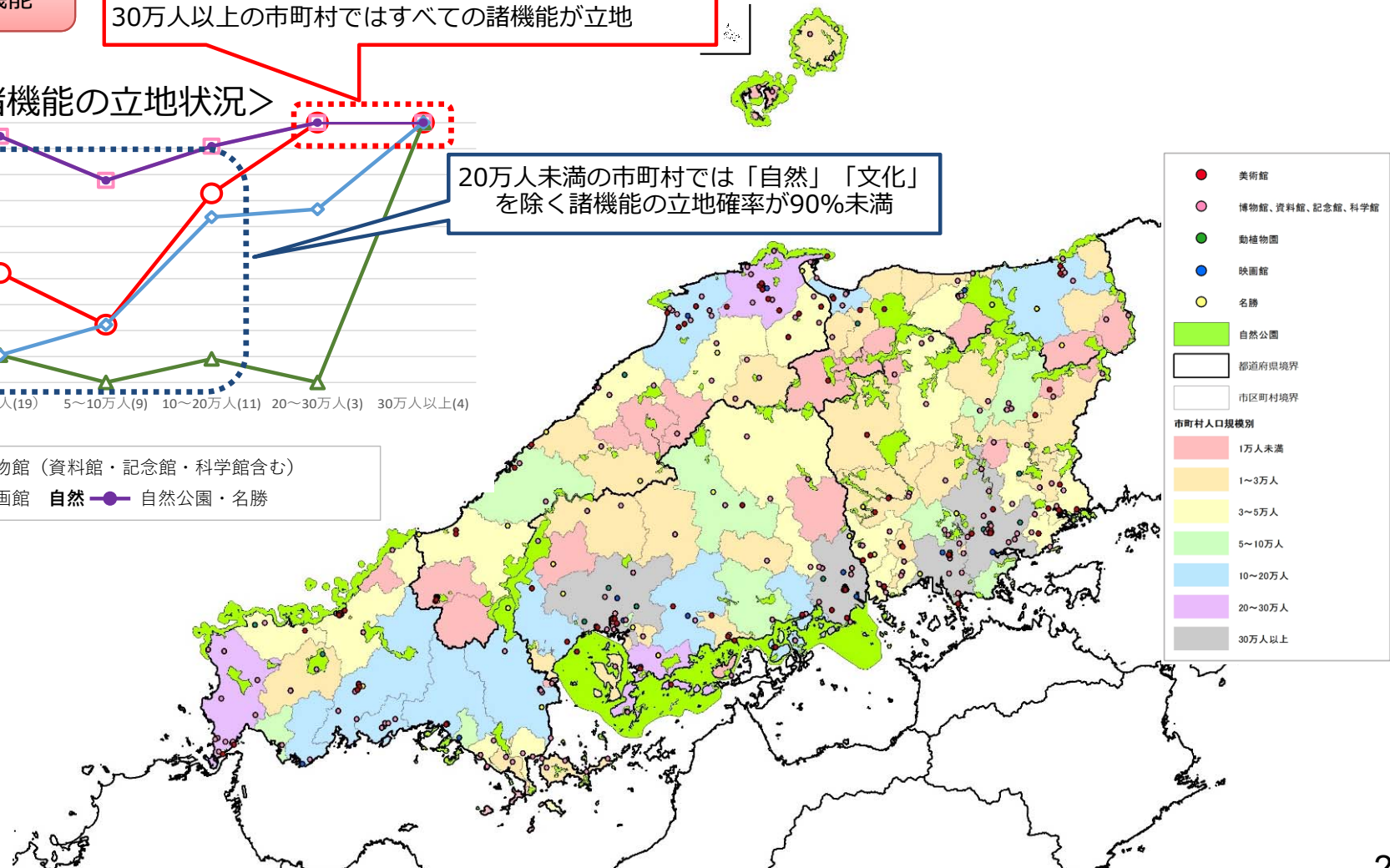
「自然」「文化」の機能は20万人以上の市町村で立地
30万人以上の市町村ではすべての諸機能が立地

<人口規模に応じた諸機能の立地状況>



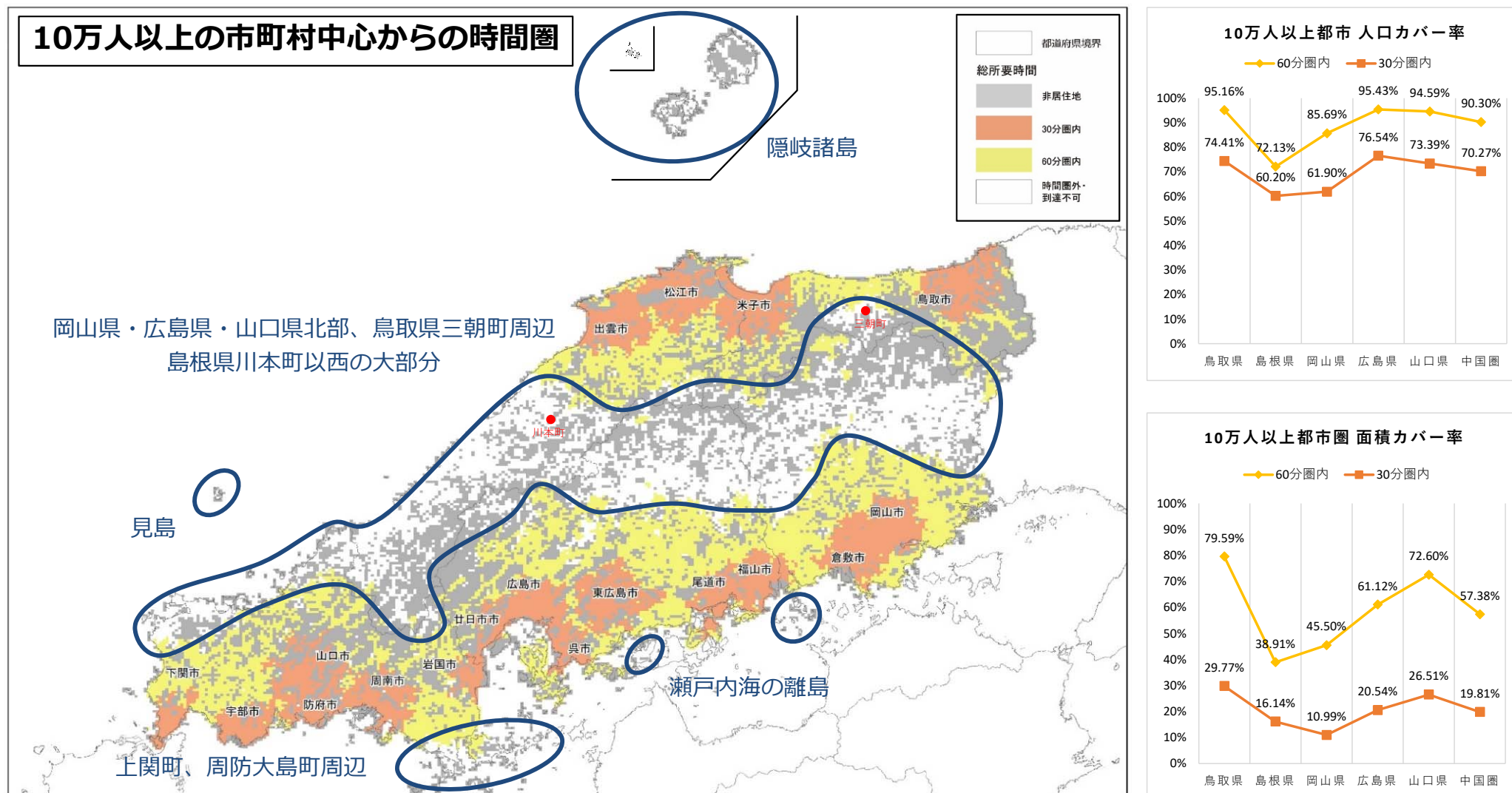
20万人未満の市町村では「自然」「文化」を除く諸機能の立地確率が90%未満

芸術 —○— 美術館 文化 —□— 博物館（資料館・記念館・科学館含む）
教養 —△— 動植物園 娯楽 —◇— 映画館 自然 —●— 自然公園・名勝



10万人以上の市町村からの時間圏の人口カバー率は島根県で7割程度

- 10万人以上の市町村からの時間圏域では、岡山県・広島県・山口県北部、鳥取県三朝町周辺、島根県川本町以西の大部分や隠岐諸島・見島・瀬戸内海側の離島において60分圏域外が広がっている。
- 10万人市町村の人口カバー率は中国圏では90.3%だが、島根県西部に白地が多く72.1%であり、他県のカバー率よりも低い。



※10万人以上の人口規模の市の中心（市役所）から道路及びフェリーを利用して到達できる時間圏域を表示

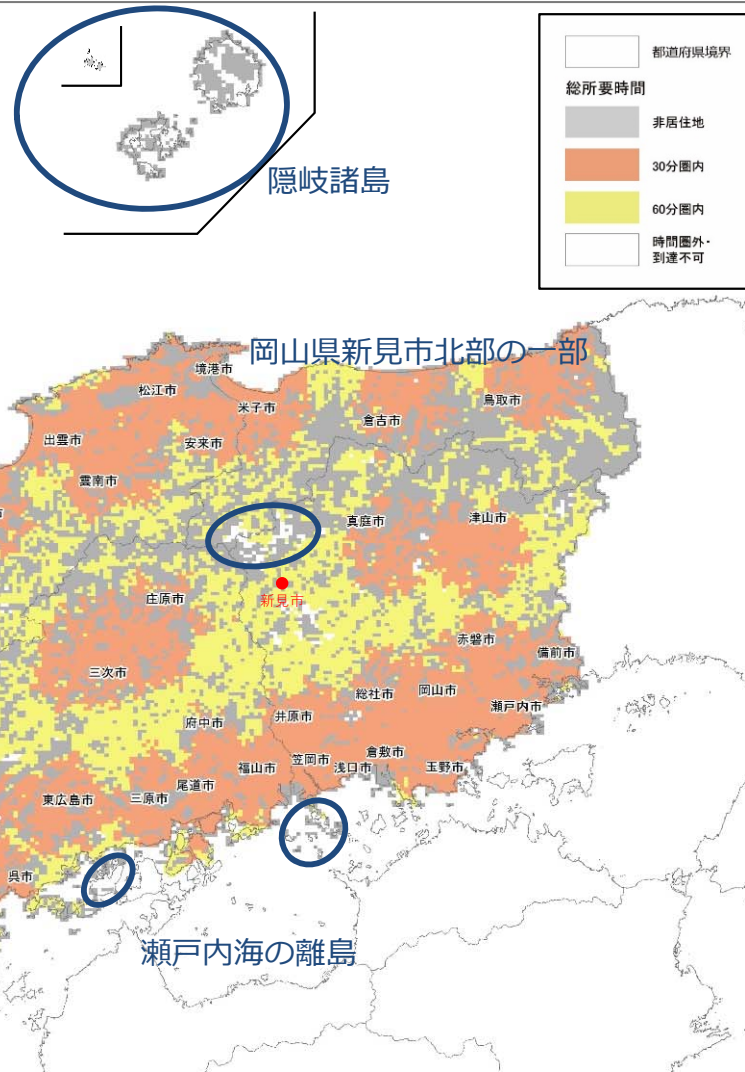
※総合交通分析システム（NITAS2.8）を用いて国土交通省中国地方整備局作成 ※道路種別：有料道路＋一般道路、道路ネットワーク年次：2021年3月

※「時間圏外・到達不可」は、60分以上の所要時間、もしくは総合交通分析システム（NITAS2.8）で 到達（計算）不可能であるメッシュ

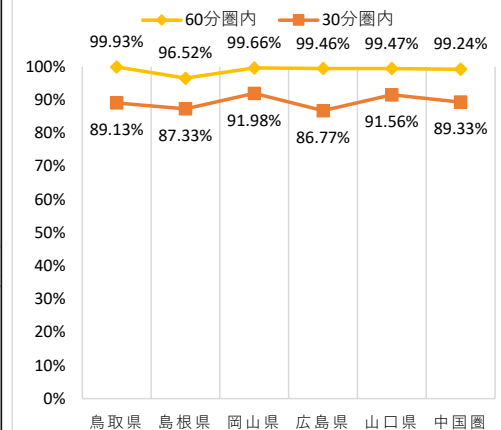
3万人以上の市町村からの60分時間圏では中国圏全域の人口を概ねカバー

- ・ 3万人以上の市町村からの時間圏域では、中国圏のほぼ全域のカバー（99.2%）。
- ・ 各県でも10割に近いカバー率であり、中国圏では3万人以上の市町村を地域生活圏の中心とする議論も考えられる。
- ・ ただし、中山間・島嶼部の一部は白地（60分圏域外）であり、これらの地域は3万人以上の市町村から60分以上の移動時間が必要であり、今後の更なる人口減少により、状況が悪化する可能性も考えられる。

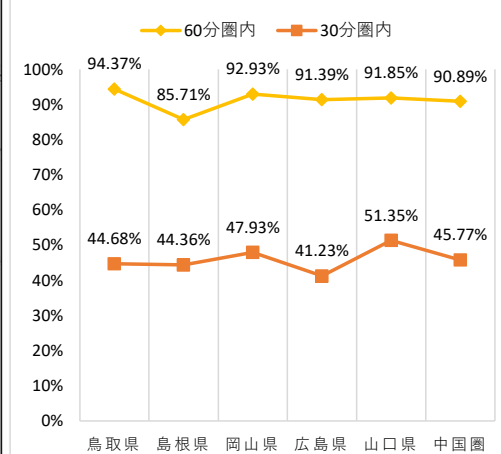
3万人以上の市町村中心からの時間圏



3万人以上都市 人口カバー率



3万人以上都市 面積カバー率



※3万人以上の人口規模の市の中心（市役所）から道路及びフェリーを利用して到達できる時間圏域を表示

※総合交通分析システム（NITAS2.8）を用いて国土交通省中国地方整備局作成 ※道路種別：有料道路＋一般道路、道路ネットワーク年次：2021年3月

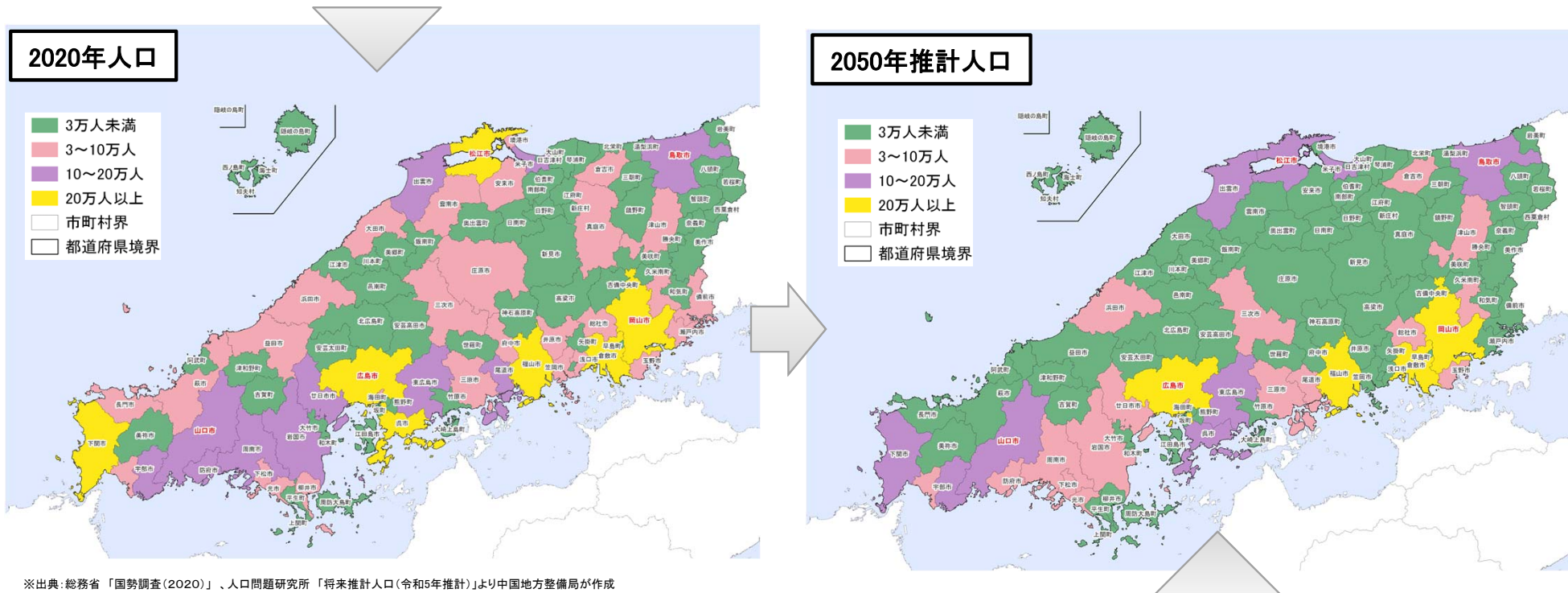
※「時間圏外・到達不可」は、60分以上の所要時間、もしくは総合交通分析システム（NITAS2.8）で到達（計算）不可能であるメッシュ

地域生活圏における生活圏人口は10万人程度以上が目安とされている。（あくまで目安であり、地域の実情に応じてエリアを検討）

このような中で中国圏では、

- ・「日々の生活に必要な機能（買い物・教育・医療・福祉）」は人口3万人以上の市町村で立地
- ・「日常に潤いを与える文化的な生活に必要な機能（自然・文化・芸術・教養・娯楽）」は人口30万人以上の市町村で立地
- ・10万人以上の市町村からの60分圏の人口カバー率は90%程度であるが、3万人以上の市町村からの60分圏の人口カバー率は99%程度で中国圏のほぼ全域をカバー
- ・「娯楽」「芸術」の機能は、人口10万人以上で立地確率が増加。

⇒「日々の生活に必要な機能」の立地状況や人口カバー率の状況から、中国圏に分散して立地する人口3万人以上の市町村を中心に中山間地域も含めて暮らしに必要なサービスが確保されている状況であることが窺える。（人口10万人以上の市町村では「娯楽」や「芸術」も確保。）



一方で、今後の人口減少により、2020年に人口3万人以上である市町村の多くが2050年に3万人未満となる推計となっている。（ピンク→緑）このことから、現時点で「日々の生活に必要な機能」が確保されている地域において、将来的に人口3万人以下になったとしても、地域の文化的・自然的一体性を踏まえ、デジタルを徹底活用することなどによって今ある機能を維持し続けられるかどうか、中国圏に暮らす人々が安心して暮らし続けていけるようになるための大きな分岐点といえる。

⇒中国圏では、生活圏人口は10万人程度以上の地域生活圏に加え、地域の実情に応じた生活圏人口3～10万人程度の地域生活圏（中間領域）を意識した圏域形成が必要であると考えられる。